

丸山台自治会の区域内には、横浜市立丸山台中学校及び横浜市立丸山台小学校があり、それぞれ地域防災拠点になっています。

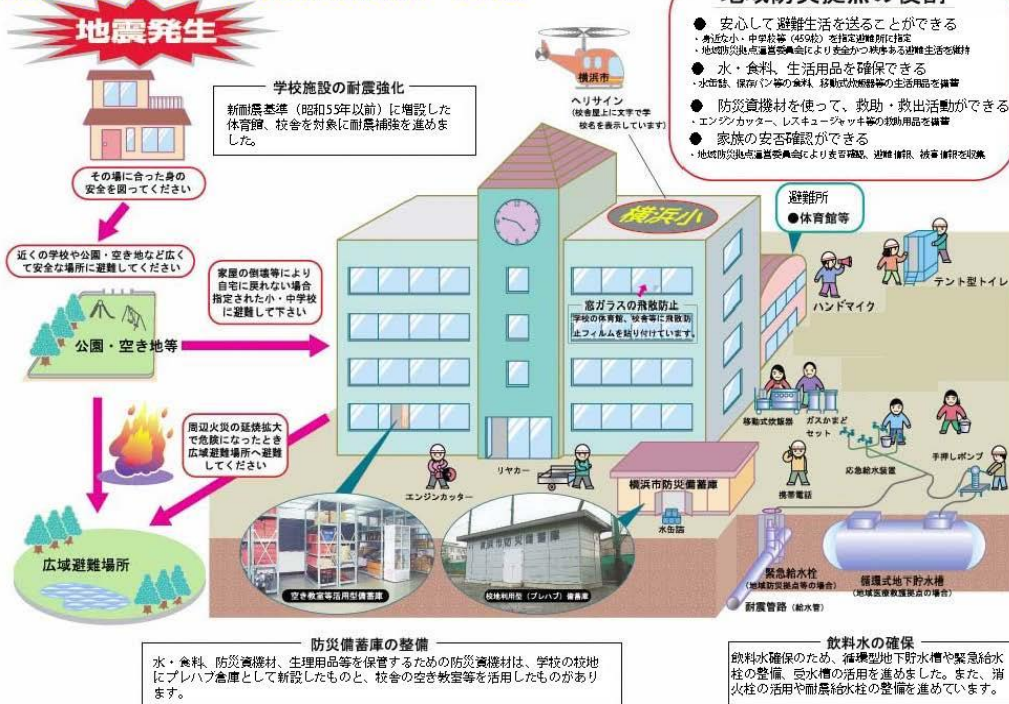
地域防災拠点について(横浜市のHP から抜粋)

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災以来、本市ではこの地震を貴重な教訓とし、「行政にとって最も大切なのは、市民の生命と財産の安全を確保すること」という信念もとづき、実践的な観点から地震対策を見直してきました。

平成7年4月、最初に実施した見直しが、震災時避難場所の指定です。さらに、同年から震災時避難場所に指定された小中学校に、防災備蓄庫を整備し、のこぎり・バール・ジャッキ・エンジンカッターなど人命救助のための防災資機材をはじめ、乾パン・水缶詰などの食料等の備蓄を行い、**地域防災拠点**として整備を始めました。

阪神・淡路大震災のような大規模な震災では、消防隊や救助隊の活動とあわせて、特に地域に住んでいる市民の皆さんの相互協力による防災活動が不可欠となってきます。いざという時に、効果的な活動を行えるようにするためには、日頃から準備と訓練が必要です。「自分の身は自分の手で守る、皆の地域は皆で守る」という気持ちを常に持ち、普段から災害に備えていただきますようよろしくお願いいたします。

地域防災拠点（指定避難所）とは



丸山台自治会は、区域内の二つの地域防災拠点合同で防災訓練を実施しております。本来であれば、両防災拠点の訓練を毎年別々に行うべきではありますが、毎年代わる自治会役員が拠点運営委員も兼ねていて、二か所の訓練を毎年行うには、人的に無理もあり、小中交互に訓練を行っております。事前に自治会役員(地域防災拠点運営委員会委員)、学校教職員、区役所、消防署、消防団、水道局、アマチュア無線等関係機関と訓練項目について検討し、訓練を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症のため、2020年と2021年は訓練も行えない状況になりました。

また、自治会では市の防災備蓄食料の他に独自でアルファ米等を毎年購入し、それぞれの拠点の倉庫に備蓄しております。これらの食料は、期限間近のものを食料配給訓練として防災訓練参加者にお配りしています。

新型コロナウイルス感染症の終息後に感染対策等も項目に入れ、また、防災資機材も新しいものが導入されていますので、それらを踏まえた訓練を実施したいと思いますので、自治会員の皆様、よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

横浜市 HP はこちら

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/wagaya/jishin/place/kyoten/kyoten.html>

横浜防災ライセンスリーダーについて

横浜市では防災拠点に備蓄の資機材取扱講習会を実施し、地域防災拠点の開設・運営を担う中核的人材として、以下の資機材取扱リーダーを養成しています。それぞれ、半日単位の講習会を受講された方にリーダー証を発行し、リーダー名簿に登載しています。

生活資機材取扱リーダー 避難生活に必要な資機材（仮設トイレ、移動式炊飯器、応急給水栓）が取り扱えるリーダー

救助資機材取扱リーダー 救助活動に必要な資機材（エンジンカッター、レスキュージャッキ、発電機、投光器）が取り扱えるリーダー

丸山台自治会においても両防災拠点に数名ずつ上記講習を終了した防災ライセンスリーダーがいます。毎年、港南区主催のフォローアップ講習会にも参加しておりますが、他所の拠点に比べ、人数が少ないのが問題です。発災時に避難所を開設・運営するのは住民の皆様です。その際、防災ライセンスリーダーが何人かいることにより、運営に役立つと思います。公的な支援(公助)が入るまで最低3日は、かかると言われております。それまでは、自分の身は自分で守る「自助」、地域の皆さんで協力して助け合う「共助」で避難所を運営する必要があります。丸山台自治会では、「自助」の次に近所の皆さんで助け合う「近助」という言い方もしています。先ずはお隣通し助け合おうということです。

終わりに

災害が起こらないことに越したことはありませんが、何かあった時には、「自分たちは自分たちで守る」、「地域ので自分達の町を守る」を合言葉に皆さんとともに自治会防災活動を進めて行きたいと思っております。防災訓練時へのご参加、また、防災ライセンスリーダー講習会への参加等、ご協力をよろしくお願いいたします。